

## 2 学力向上アクションプランの具体例

横浜市立高田東小学校

令和2年度 学力向上アクションプラン

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「チャレンジ! なかよし! 進んで学ぶ 東の子」	問題発見・解決能力

#### (2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>「一人ひとりの子どもを徹底的に大切に、どの子どもにも居場所となる学校づくり」を目指します。</p> <p>(1) 人権教育を基盤とし、児童一人ひとりに寄り添った支援・指導をすることにより、あたたかな学級・学校風土をつくりまします。</p> <p>(2) 学びに向かう力を高め、確かな知識・技能の習得やそれを活用する思考力・判断力・表現力の育成を図ります。</p> <p>(3) 学級や学年を超えた集団の活動を充実することにより、自他を大切に、共によりよく生きる力を育てます。</p> <p>(4) 保護者や地域との連携を図ることにより、地域や社会に関心を持ち、高田のまちを愛し、大切にすることを育てます。</p> <p>(5) 自他の違いを受け止めながらコミュニケーションを図り、考えを表現したり合意を形成したりする力を育てます。</p>

#### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

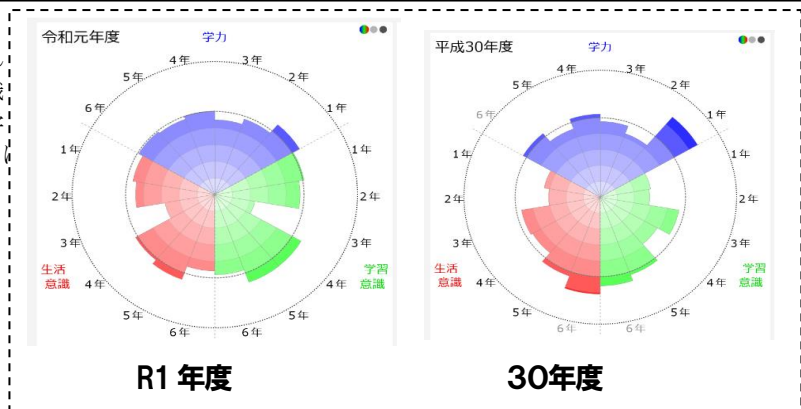
重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	<p>① 教育課程全体で育成を図りたい資質・能力を明確にし、自ら問いを見出し、主体的・協働的に問題解決をしていくための授業改善を進める。</p> <p>② 横浜市学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果から子どもたちの実態を把握・分析し、学習指導充実のための継続的な検証改善を図る。</p>
担当	学習指導部

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

#### (1) 学力の概要と要因の分析

学びのユニバーサルデザインの考えを取り入れ丁寧な指導を行っていること、またその意識が職員の中で共有しようとしていることで各学年の学力や学習意識の学年間における差が減少したように見える。

その中で着目したことは、



#### (2) 教科学習の状況

- 国語科：「読むこと」についてはどの学年も理解している。一方、「話す・聞く」能力や「書く」能力に関する部分は全体的に通過率が低い。特に目的・意図に応じて書いたり、聞いて話したりすることに関して多学年にわたって顕著に低い傾向があった。
- 社会科：知識・理解について通過度が低い学年がある。子どもたちの生活に身近ではないものについての理解度が低い。子どもたちにとって距離がある材を扱う際に、知識を活用しながら課題を解決する学習展開を工夫するなどする必要がある。
- 算数科：学年が上がるにつれて、理解できない児童が増える傾向がある。4年生当たりから、「技能」や「知識・理解」について児童間で差が開いている。学力D群の児童への個別具体的な支援が必要である。
- 理科：地学分野・生物分野においてどの学年も知識の定着度が低い。観察・実験が好きと回答する児童は非常に多いので、実験・観察前後の予想場面や考察場面への取り組み方について考えていきたい。

#### (3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

ここ数年の経年変化を見ると、全体的に学力・学習意識・生活意識がなだらかであるが向上し学年差も小さくなっていることがわかる。一人ひとりの子どもの実態に目を向け、個別具体的に支援を継続する姿勢やその方法が職員間の中で共有されてきているとも考えられる。

今後は、学校全体としてはぐくむ子供の姿を共有し、

く汎用的な技能を学校として共通な考えで指導をしていくことで、学年差の解消につながると考える。また、何のために学んでいるのかということ、体験的に理解していくことが持続的に学び続け、学ぶことが楽しいという態度の育成につながると考える。